

# まごころだより

2017年5月号

桜も散り、チューリップの季節になりました。先日入善のフラワーロードへ行ってきました。色とりどりのチューリップと菜の花畑、その向こうに青空をバックにした立山連峰、春の訪れを実感してきました。一方まごころでは、いよいよ畑の作業に入りました。畑に詳しいボランティアの方に教わりながら、土地を耕しうねをつくり、種芋を植えました。

夏野菜用のうねをつくり、このあと里芋の準備を予定しています。利用者の皆さんは想像以上の働きぶりで畑仕事を楽しんでいます。私たちが本当にほしいのは日常の中にある継続した幸せです。畑仕事は晴耕雨読、お天気任せ、体力次第です。なかなか思うようにはいきませんが、イベントばかりのその場しのぎの楽しさではなく、喜び生きがいのある日常を畑をとおして作りあげたいと思っています。



さて、私は半年前に体調をくずし入退院を繰り返すようになりました。そしてまごころを休職して、24時間何の予定も行事もない日々を過ごすようになりました。

考えてみれば5歳で幼稚園に通いだして以来、学校、仕事と、決められた日課や予定の中で時間に縛られ、時間に追われる毎日を過ごしてきました。しかもここ数年は介護の仕事が面白く、次々に思い浮かぶアイデアを実現するために動き回ってきました。動いていること、行動している

ことに充実感を感じました。何もしないと時間を無駄にしているそんな思いを持っていました。その私が仕事から離れ全く日課や予定のない真っ白な日々を過ごすことになったのです。私はこんなんびりした毎日は時間をもてあまし虚しい日々を過ごすことになるのではないかと感じていました。

しかし仕事も予定もない毎日をタンタンと過ごしているうちに、今までの忙しい生活は逆に時間を浪費してきたのではないかと思うようになりました。とかく



私たちは行動することが重要で何もしないのは時間を無駄にすると思いがちです。人は絶えず忙しく



動いていることで充実感を感じ満足します。しかしそこには達成感はあるものの次々と階段を昇って行かないと安心できないような危うさがあります。よく考えてみれば、行動もしないということは時間を無駄にしているとか、存在の価値がないということではないのです。

私の父は重い脳梗塞で半身不随になり、約5年間毎月1~2回大阪に通い介護をしてきました。また胃がんで最期には寝たきりになった義母を自宅で看取りました。私はほとんど動くことのなくなった実父や義母から本当に多くのことを学びました。私にとって父や義母はそこにいる、それだけで大きな意味（価値）がありました。忙しく動いていることにのみ意味を感じていたのはまちがいだったと思うようになったのです。

「忙しいとは心を亡くした状態だ」なのです。私は今ゆっくりと過ごすことにより豊かな時間を得ました。この与えられた時間を大切にしたいと思っています。

### 5月の行事

6日(土)	ハーモニカ演奏
8日(月)	小物づくり
12日(金)	ピアノ演奏
17日(水)	歌謡ショー
25日(木)	惣菜又はお菓子づくり
29日(月)	食事会

現在娘が生後3か月の孫(優月)を連れて里帰り中です。残念ながら私は入院中のため、娘は優月をまごころに預け毎日病院に来てくれるようになりました。

まごころで優月は利用者の方に抱かれて眠り、あるいはいつもならおっかない顔をした利用者の方にあやされている、そういうほほえましい写真が次々と私のところに届くようになりました。また3か月の優月をのぞき込み、抱きあや

し気づかいをする、そんな暖かい雰囲気を感じさせる写真ばかりです。

別に何かあるわけでも、何か特別なことをするわけでもない、でもホッと満たされた思いになる、そんな日常を提供できる施設でありたいと思っています。

